

English in Action Vol.1 で英語に触れ始めた子どもたちは、Vol.3 を終える頃までに、いろいろな英語の表現を身につけてきました。

まず、Vol.1 で「英語って聞いていると、だんだん分かってくる！」という経験をしながら、自己紹介ができるようになることを目指しました。そこで使った英語の表現を、Vol.2 で再確認しながら、語彙を増やして表現できる内容を広げ、日本語とは違う英語の音にも慣れて、日ごろ経験することを伝え合うことができるようになりました。そして、Vol.3 では、複数の文を使って事物を比べたり社会科で学習したことを説明したり、気持ちや考えを表現することにも挑戦しました。

いよいよ Vol.4 での学習が始まりますが、Lesson 31 の最初の英語を見て、「あれ、全部分かる！全部読めるよ！」と子どもたち自身がびっくりするかも知れません。今までに経験した表現が文字になって並んでいるのですから、読めても不思議ではありません。続くレッスンでも、時々耳にしてきた *Can you…? May I …?* など「できるかな？ やってもいいかな？ そんなことしちゃダメ！」という言い方を確認していきます。日常の場面で使いたくなるお役立ち表現を、子どもたちが頻繁に接するような分かりやすい状況で経験させます。もう済んだことの表現「こんなことをしたよ」や、これからの予定を伝えるときの「こんなことをするはずだよ」という表現、そして、考えていることや、これからやろうとしていることについて、今までより適切に伝えられるような言い方を経験します。

Vol.3 までに使ってきた英語のルールにもう一つ加えて、助動詞を使ってみたり、動詞を変化させて過去やこれから起こることを表現する、ということです。今までの授業でも、お天気の話をして「おや、雪が止んだようだよ、今朝は寒かったね」といい、今朝何を食べてから学校へ来たかと朝食の話をしたり、誕生日を教え合ったり、授業を始めるときに何気なく英語で話しかけていた表現を、ここで子どもと一緒に整理をするのが目的です。地震の時は「机の下に入りなさい、おしゃべりをしてはいけません！ **Get under your desks. You must not talk.**」のように、どうしても使わなければならない表現を、身近に感じながら楽しく英語でコミュニケーションをとる経験をさせましょう。

画面のイラストを見ながら英語だけでお話を聞いて、内容を聞き取る力も伸びてきたでしょうが、同時に聞き取れたことを読みとる力も付いてきていると思います。声を出して、お話を語ってみたいくなっている子どももいるでしょう。子どもの力を存分に伸ばして、中学での英語学習につなげたいと思います。子どもの秘められた学習能力を引き出せるように授業作りをしてください。